

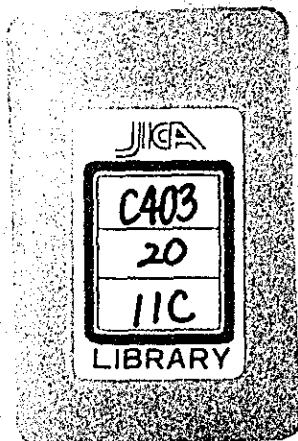
派遣専門家オリエンテーション資料

コモロ

FEDERAL ISLAMIC REPUBLIC OF
THE COMOROS

任国情報

1992年



国際協力事業団
国際協力総合研修所

国際協力事業団

23792

はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

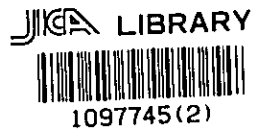
本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家、JICA事務所員、プロジェクト調整員、協力隊調整員とその御家族の多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

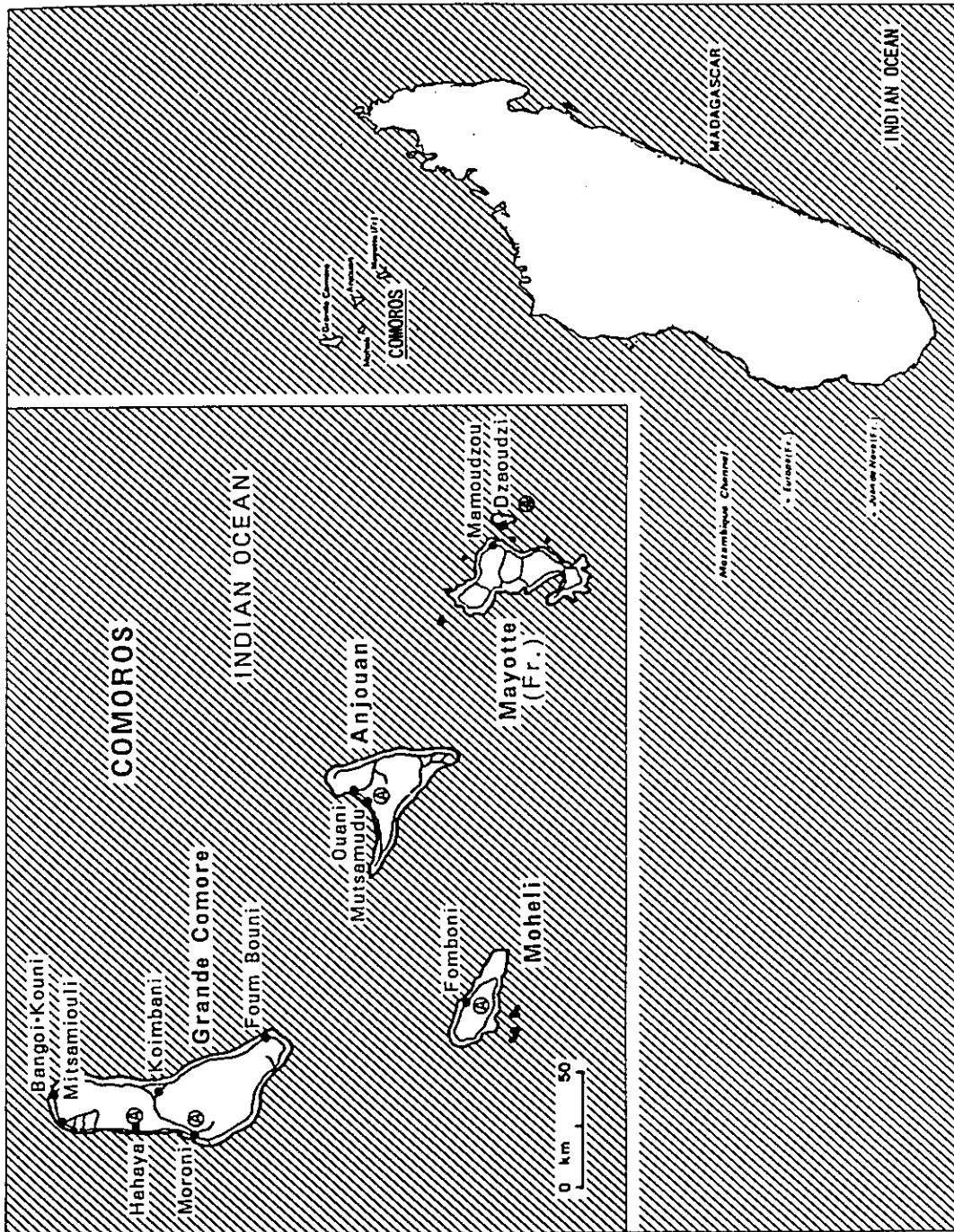
今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

平成 4年 6月

国際協力事業団
国際協力総合研修所所長





目 次

I 一般事情

1. 主要指標	1
2. 略 史	3
3. 政治、外交	4
4. 経済事情	6
5. 我が国との関係	10

II 生活事情

1. 食生活	14
2. 衣 料	17
3. 住 宅	19
4. 医 療	21
5. 教 育	23
6. 家庭の使用人	24
7. 交通事情	26
8. 通 信	28
9. マスコミ	29
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	30
11. その他のサービス	33
12. 観 光	34
13. 治安、緊急時の心得	35
14. 出入国手続および帰国手続	36
15. 私財の輸送、引き取り、購入	37
16. 社 交	38
17. 任国官公庁	39
18. 在外日本関係機関など	40
19. 地方都市	41

I 一般事情

1. 主要指標

1-1 国名	コモロ・イスラム連邦共和国 Federal Islamic Republic of the Comoros
1-2 独立	1975年 7月 6日 (旧宗主国：フランス)
1-3 首都	モロニ Moroni
1-4 面積	人口 1万 6,000人 (1990年) 1,862平方キロメートル (フランス領マヨット島を除く。 大阪府とほぼ同じ)
1-5 気候	熱帯性で高温多湿である。雨季 (11～ 3月) と乾季 (4～ 10月) に分けられる。気温は年間を通し25～30℃の間であ まり大きな差はなく安定しており、特に乾季はカラッとし た日が多く、しのぎやすい。
1-6 人口	47万 1,000人 (1990年概算) 人口密度 1平方キロメートル当たり 252.9人 人口増加率 約 3% (1990年)
1-7 人種構成	アフリカ大陸系、アラブ系を中心としてマダガスカル、ク レオールなど多種の部族の混血から成る。グランドコモロ 島、モヘリ島はアフリカ大陸系が強く、アンジュアン島は アラブ系の血が濃い傾向がある。
1-8 言語	フランス語、コモロ語
1-9 宗教	イスラム教86%、キリスト教14%
1-10 政治	
(1) 政体	共和制
(2) 元首	サイド・モハメド・ジョハール大統領 (Said Mohamed Djo- har、1990年 3月就任、任期 6年)
(3) 議会	1院制連邦議会で定員42人、任期 5年
(4) 政党	コモロ進歩連合 (現与党)、コモロ国民民主連合 (UND C)、民主戦線 (FD)
1-11 経済	
(1) GNP	2億 2,700万ドル (1990年) 1人当たり 480ドル (1990年)
(2) 主要産業	バニラ、丁子、イラン-イランなどの香料、コプラ
(3) 貿易	輸出 1,793万ドル (1990年) 輸入 4,523万ドル (1990年)
(4) 財政	歳入 110億コモロ・フラン (1991年予算) 歳出 120億コモロ・フラン (1991年予算)
(5) 通貨	通貨単位 コモロ・フラン (Comorian Franc: CF) 為替相場 1フランス・フラン=50コモロ・フラン (1992)

- 年 1月末)
- (6) 外貨準備高 2,700万ドル (1991年概算)
- (7) 対外債務 2億 1,000万ドル (1991年概算)
- 1-12 日本との時差
時差は 6時間で、日本の正午はコモロでは午前 6時である。
- 1-13 祝 祭 日
7月 6日 独立記念日
そのほか、イスラムの宗教関係の祝日がある。

2. 略 史

8世紀頃	アフリカ大陸よりバンツー系民族が渡り、先住民族となる
18世紀頃	アラビア人による交易、イスラム教の普及が始まる
1886年	ヨーロッパ・パワーが押し寄せる
	イギリスとフランスの間で争われた末、フランスの保護領となる
1961年	自治権が付与される
1975年 7月 6日	コモロ政府がマヨット島を含み、独立を宣言
同年 7月 7日	アームッド・アブダラが初代大統領に選出される
同年 7月	アフリカ統一機構（OAU）がコモロの独立および同機構加盟を承認
同年 8月 3日	統一国民戦線（FNU）によるクーデターが勃発し、アブダラ大統領を失脚させる。サイド・モハメッド・ジャッフルを首班とする国家行政会議が設立
同年11月	国連加盟承認
同年12月31日	フランス政府がマヨット島を除くコモロ諸島の独立を承認
1976年 1月 2日	アリ・ソワリが元首に選出され、省の廃止で 2人の國務相が内政、外交の一切を担当した
1977年 5月	基本法により、コモロを「民主的、非宗教的、社会主義共和国」と規定した
1978年 5月13日	アブダラのヨーロッパ人雇兵による第 2のクーデターが勃発し、アリ・ソワリを失脚
同年10月 1日	アブダラが大統領に選出される。新憲法が採択されコモロ共和国からコモロ・イスラム連邦共和国に改称される
1979年 1月	新内閣誕生
1986年 1月	地域国際機関のインド洋委員会（IOC）に加盟
1989年11月26日	アブダラ大統領が何者かに暗殺される
1990年 3月	国民の総選挙によりサイド・モハメッド・ジョハールが大統領に選出される

3. 政治、外交

3-1 最近の政情

フランス政府は以前より、コモロにおけるフランス傭兵隊の存在が、ほかの第三世界の国々に及ぼすマイナスイメージを警戒していた。1989年、ミッテラン＝フランス大統領は在コモロ傭兵隊をパリにおいて正式に承認された警備隊に交代させるよう、コモロ政府と会談を始めた。

このような動きのなか、1989年11月26日、在コモロのフランス傭兵隊隊長ボブ・デナードとその部下数名はこの会談の中止を求め、アブダラ大統領のもとへ向かった。事件の詳細は明らかではないが、この日の夕方、アブダラ大統領とそのボディガードが殺害された。デナードは、いち早く暗殺者を前コモロ軍司令官のアーメッド・モハメッドと断定し、非難の声明を発表したが、フランス大使館はこの声明には信憑性が薄いとし、その後デナードの犯行と断定した。事件後、サイド・ジョハール最高裁長官が暫定大統領に就任した。ジョハールは、早速、非公式ながらフランスを訪問し、両国の友好関係を確認した。12月15日デナードが国外追放となってから、ジョハールは国内の反対勢力とききたる選挙について会合を開いた。この会合を受けて90年3月、大統領選が行なわれた。

ジョハールとコモロ国民民主連合（UNDC）代表のモハメッド・タキが立候補し、ジョハール55.3%、タキ44.7%の得票で、ジョハールが大統領に選ばれた。選挙後、タキは不正があったと主張したが、オブザーバーとして選挙を監視していたアフリカ統一機構（OAU）がこの申し立てを否定した。

ジョハール大統領は開かれた政府を標榜し、反対勢力にも政治への自由な参加を呼びかけた。

1991年8月3日、最高裁がジョハール大統領の追放を宣言、ハリディ最高裁長官を大統領に任命したと発表した。政変は失敗、ハリディ長官は自宅軟禁された。ジョハール大統領は同26日、内閣を大幅改造した。国務相を含む15閣僚のうち新人9人を起用、野党民主戦線（FD）からもはじめて2人が入閣した。

3-2 外 交

非同盟中立主義を掲げているが、フランスとの歴史的な結びつきから西側寄りの現実的な政策を展開している。

1986年にインド洋委員会（IOC）への加盟が認められ、インド洋諸島との関係強化、地域協力を力を入れている。

フランスとは1987年に軍事・経済協力協定に調印した。アーメッド・アブダラの暗殺後のサイド・ジョハール政権の誕生はフランスの協力によるところが大きく、両国の外交関係はますますつながりを深めている。現在、最大の懸案はマヨット島の返還問題だが、政府はフランスとの平和的解決を望んでいる。

南アフリカとは民間レベルの交流が盛んで、関係が深い。

コモロは現在OAU、東部・南部アフリカ諸国特惠貿易地域（PTA）、IOCの加盟国となっている。

1985年にはマダガスカル、セイシェルとの間の外交関係が回復し、特にマダガスカルとはジョホール大統領の生地ということもあり、関係を深めている。

4. 経済事情

4-1 概 観

コモロは1人当たりのGNPが480ドル(1990年)で、ほかのアフリカの低所得国に比べればそれほど悪くはない経済状況といえる。しかしながら、経済地盤そのものがごく小規模で、小さなファクターが経済全体に大きな変動をもたらすことが考えられ、余断を許さない。

コモロには肥沃な土地が不足しており、人口の半分が農業に従事しているにもかかわらず、自給自足にはほど遠い。伝統的な輸出品であるバニラや丁子は過剰生産、価格の下落などにより、商品性が低下している。

地理的な孤立と原材料の不足が輸出の振興を妨げている。今後の経済成長には漁業、果物・野菜の生産、そして特に観光に期待がかかっている。

フラン・ゾーン・リポートによると、コモロのGDPは268億コモロ・フラン(1980年)から585億コモロ・フラン(89年)に成長している。88年と89年は、コモロの経済地盤の弱さとボブ・デナードらによる政治的不安材料が露見し、GDP成長率も鈍化した。また、1.5%という85~89年の平均GDP成長率では、年平均3%以上人口が増加する現状において国民に一定の生活を保証することはできない。1人当たりの実質GDP成長率は、84年の初め頃から減少の傾向にある。

4-2 産 業

(1) 農 業

労働人口の約80%が農業に従事しているものの、コモロは食料の供給を輸入に大きく頼っている。

焼畑農業などによる土地の荒廃、急激な人口増加により、自給自足の道は断たれ、世銀はカルダモン、コショウ、果物など商品作物の栽培を積極的に推し進めるよう指摘している。もっとも主要な輸出作物はバニラで、コモロは世界でマダガスカルに次ぐ輸出大国である。しかし、近年インドネシアからの安い輸出を受け、バニラの国際価格は急激に下落している。1980年代を通して、コモロは国際競争力のある価格へと転換を迫られた。90年、ジョハール政府は、市場価格を安定させ、品質向上をはかり、国際的な市場シェアをとり戻す計画をたてた。一方、バニラの国内生産者価格は上がり続けており、90年は1キログラム2,500コモロ・フランで、これはほかの競争国に比べかなり高い数値である。このような動きは農民に品質改良、新しい畑の開墾などに意欲をもたらした。同時期にバニラ輸出が自由化され、国際市場での競争が激化している。

主要輸出品のひとつである丁子は、国際市場価格の低下に苦しんでいる。主要輸出先国であるフランスでの丁子の価格は、1988年10月は1キログラム16.5フランで、91年1月には1キログラム10フランまで下落した。89年の輸出金額は6億2,900万コモロ・フランで、87年の15億5,200万コモロ・フランに比べ大幅に下落している。

コモロはまた、世界最大のイラン-イラン生産国である。イラン-イランは香水に使われる香料で、主にフランスに輸出される。1980年代前半イラン-イ

ランにかわる合成香料が出回り、需要が停滞し、イラン-イランの生産量が急激に鈍化した。しかし、80年代後半には着実に需要が伸び始め、国際市場価格も上昇の傾向にある。コモロの国内生産量は、88年67トンで、89年には72トンに増加している。フランスでの価格は最高品質のもので1キログラム約1,000フランである。

(2) 漁業

コモロは豊富な海洋資源に恵まれているものの、魚介類の輸入国で、多くは南アフリカから輸入される。

伝統的にコモロには漁業の習慣がなく、現在でも兼業を含め8,000人が従事し、年5,000トンの水揚げ量を計上しているにすぎない。

また、一般の漁民は船外モーターや冷凍設備など漁獲に必要な設備を保有しておらず、効率的な漁業が行なわれているとはいえない。

4-3 財政

1986年までの統計をみると、中央政府歳出の半分以上は予算外での支出であったため、公式予算の財政収支はコモロの財政状況を知る手がかりとして価値が大きいとはいえない。

歳入は、丁子とバニラの輸出の停滞により税収入が抑制され、伸び悩んでいる。政府は1989年初頭、歳入の大規模な削減を公表した。IMFの予想によれば、今後5%の市民税カット、35%のバニラ輸出税カット、丁子とコブラの輸出税の一時的停止などが具体的にあげられている。

1990年後半、IMFと世銀により構造調整プログラムが打ち上げられた。このプログラムには、ジョハール政府が積極的な経済改革を行なうこと、銀行が投資支出を増大させることなどが要求されていた。1990年の歳入の大幅削減に対し、政府がどのように財政を制御していくか、興味のあるところである。

アフリカの多くの国々がそうであるように、税の収入率が問題となっている。コモロは1989年で予定税収額の85%の税収を達成した。(88年は同77%)

表1 財政収支推移

(単位：100万コモロ・フラン)

	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年
予算収支	▲756	▲607	▲2,644	▲3,234	-
歳入計	11,713	9,289	8,659	7,971	-
歳入	8,969	6,820	8,659	7,971	7,750
贈与	2,700	2,469	-	-	-
歳出計	12,470	9,896	11,303	11,205	9,648.5
経常	11,690	8,793	10,251	10,121	9,398.5
資本	780	1,036	1,052	1,084	250.0
予算外収支	▲4,060	▲6,788	-	-	-
贈与	6,796	4,420	1,693	1,540	-
支出	10,856	11,208	-	-	-
総合差し引き	▲4,816	▲7,395	▲951	▲1,694	-
GDP比(%)	9.4	13.4	1.7	3.0	-

(注) 1990年の数値は計画予算時のもので、実質数値ではない。

4-4 貿易、国際収支

(1) 貿易

コモロの貿易パフォーマンスは、毎年大きく変動している。これは、輸出が2、3の香料、香辛料に頼りきりで、安定した輸出額が得られないためと考えられる。世銀は、安定した輸出を達成するため、商品作物のバリエーションを増やすよう指摘している。

表2 主要輸出品の輸出額推移

(単位：100万コモロ・フラン)

	1985年	1986年	1987年	1988年	1989年
バニラ	4,690	5,400	1,275	4,975	3,621
丁子	1,375	815	1,550	465	629
イラン-イラン	660	630	590	745	1,276
計(その他含む)	7,048	7,053	3,485	6,398	5,758

コモロの最大輸入品は米で、多くはパキスタンから輸入している。1989年の輸入総額は64億コモロ・フランで、うち米が27億コモロ・フラン、肉・魚が8億4,000万コモロ・フラン、小麦・砂糖・日常生活品などが9億4,000万コモ

ロ・フラン、石油が 7億 8,300万コモロ・フラン、輸送機器が 7億 6,100万コモロ・フランとなっている。なお、石油の多くはバハレーンから輸入している。

(2) 国際収支

表3 国際収支

(単位：100万ドル)

	1985年	1986年	1987年	1988年	1989年
商業輸出 (FOB)	15.7	20.4	11.6	21.5	18.1
商業輸入 (FOB)	28.2	28.5	44.2	44.3	35.7
貿易収支	▲12.5	▲8.1	▲32.6	▲22.8	▲17.6
サービスおよびIPDの輸出	4.8	8.3	16.2	18.6	21.6
サービスおよびIPDの輸入	37.9	45.4	44.7	46.2	42.3
純民間移転	▲0.7	▲2.0	0.9	3.1	2.7
純公的移転	32.0	31.7	38.7	40.8	38.5
経常収支	▲14.3	▲15.7	▲21.4	▲6.5	2.9
直接・有価証券投資	▲0.2	—	7.6	3.8	3.3
他の純資本	18.8	21.2	22.0	1.5	3.2
資本収支	18.6	21.2	29.6	5.3	6.5
誤差・脱漏	1.8	▲2.0	0.7	4.8	▲4.0
総合収支	6.1	3.5	8.8	3.6	5.4

5. 我が国との関係

5-1 政治、外交

我が国は1977年11月14日、コモロの独立を承認した。

1981年7月、ベン・アリ首相（当時）来日中、日本からのシーラカンス学術調査隊訪住が承認され、2匹釣りあげたのが話題を呼んだ。

また、在コモロ日本公館はなく、マダガスカル大使館が管轄している。

5-2 経済、貿易

コモロからは精油（香料、香水の原料）、丁子などが輸出され、日本から漁船、自動車、鉄鋼板などを輸入している。

表1 対日貿易額推移 （単位：1,000ドル）

	1986年	1987年	1988年	1989年	1990年
対日輸出	164	393	655	356	690
対日輸入	430	1,990	698	3,682	4,290

5-3 経済・技術協力

我が国は、無償資金協力および技術協力により援助を実施している。無償資金協力については食糧援助、食糧増産援助を中心に、水産、通信などの分野で実施しており、技術協力については水産、運輸・交通などの分野で研修員受入れ、専門家派遣などを行なっている。

表2 我が国のODA実績

(支出純額、単位：100万ドル)

暦 年	贈 与			政 府 貸 付		合 計
	無償資金 協 力	技術協力	計	支出総額	支出純額	
86	0.59(69)	0.27(31)	0.86(100)	—	— (—)	0.86(100)
87	2.68(82)	0.57(18)	3.25(100)	—	— (—)	3.25(100)
88	1.65(76)	0.53(24)	2.18(100)	—	— (—)	2.18(100)
89	3.28(86)	0.53(14)	3.81(100)	—	— (—)	3.81(100)
90	4.08(94)	0.26(6)	4.33(100)	—	— (—)	4.33(100)
累 計	18.93(87)	2.94(13)	21.85(100)	—	— (—)	21.85(100)

(注) カッコ内は、ODA合計に占める各形態の割合(%)。

表3 年度別・形態別実績

(単位：億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1985年度 までの 累 計	なし	19.63億円 海難漁民救助計画 (80年度：3.50) 飲料水供給計画 (81年度：1.00) 漁業振興計画 (81年度：3.00) 食糧援助 (82年度：0.71) 漁業訓練センター建設 計画 (83年度：6.00) 食糧援助 (83年度：0.72) 食糧援助 (84年度：0.70) 道路整備計画 (85年度：3.00) 食糧援助 (85年度：1.00)	1.45億円 研修員受入れ 10人 専門家派遣 4人 調査団派遣 10人 機材供与 6.8百万円
1986年度	なし	0.88億円 食糧援助 (0.80) 災害緊急援助(台風被 害) (30万フラン=0.08)	0.60億円 研修員受入れ 5人 専門家派遣 1人 調査団派遣 1人 機材供与 15.5百万円
1987年度	なし	5.90億円 漁業振興計画 (3.40) 食糧援助 (1.00) 食糧増産援助 (1.50)	0.72億円 研修員受入れ 5人 調査団派遣 4人 機材供与 9.3百万円

(単位：億円)

年度	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1988年度	なし	2.25億円 食糧援助 (0.75) 食糧増産援助 (1.50)	0.94億円 研修員受入れ 7人 専門家派遣 2人 調査団派遣 7人 機材供与 4.0百万円
1989年度	なし	7.24億円 通信施設整備計画 (4.24) 食糧援助 (1.00) 食糧増産援助 (2.00)	0.66億円 研修員受入れ 3人 機材供与 2.2百万円
1990年度	なし	3.00億円 食糧援助 (1.00) 食糧増産援助 (2.00)	0.31億円 研修員受入れ 3人 専門家派遣 1人 機材供与 0.4百万円
1990年度 までの 累 計	なし	38.90億円	4.68億円 研修員受入れ 33人 専門家派遣 8人 調査団派遣 22人 機材供与 38.3百万円

- (注) 1) 「年度」の区分は、予算年度による。
2) 「金額」は、無償資金協力は交換公文ベースに、技術協力はJICA経費実績ベースによる。

Ⅱ 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

食料品はほとんどがマダガスカル、南アフリカ、フランスなどからの輸入品で、現地産は魚類、果物、イモ類などのみである。したがって、価格も近隣諸国に比べかなり高価である。グランドコモロ島での食料調達は容易であるが、全体的に品質はよくない。

衛生面はかなりの問題がある。青空マーケットでは生肉、生魚などにハエがたかっても平気でおいてあり、マーケットでも期限切れのもの、さびた缶詰、虫のわいたスパゲティなどが陳列されている。現地の人々は、不衛生であるという認識は全然持ち合わせていないようである。

(2) 主な食料の出回り状況

現地の人々の主食は、現地産の青バナナ、イモ類と輸入品の米、小麦粉で作ったフランスパンが一般的である。米は一般に品質も悪く、においの伴うものもある。グランドコモロ島の出回り状況は安定している。

スパゲティ、マカロニなどもマーケットにていつでも手に入るが、期限切れのものもかなり出回っているため、回転の早いマーケットを選ぶ必要がある。グランドコモロ島の出回り状況は安定している。

インスタントラーメンなど東洋的加工品は、ほとんど売られていない。

肉類は現地産牛肉、山羊肉、鶏肉と、輸入品の冷凍牛肉、鶏肉とがあり、輸入品はそれぞれ部分的に分けて売られている。現地産鶏肉は価格、鮮度などいづれもよいが、解体などは自分で行なう必要がある。牛肉は脂肪の部分が多く、あまりすすめられない。価格は、どの肉も1キログラムで1,000～2,000円の間である。グランドコモロ島の出回り状況は安定している。

コモロはイスラム教のため、豚肉および豚肉の加工品はほとんど手に入らない。また、卵はぜいたく品で非常に高価で、小玉サイズで1個50円もする。

魚介類は四方海に囲まれていて、さまざまな水産資源に恵まれているにもかかわらず、現地の人々の食文化の狭さにより、常時入手できる種類は限られている。例えばウニ、イカ、貝類、エビ類は一般市場で手に入れることは非常にむずかしい。

常時入手可能な魚介類は、マグロ、カツオ、フエダイ類、アジ類、そのほか色とりどりの魚である。季節的に入手可能なものにタコがある。価格は、グランドコモロ島ではほかの島に比べて2～3倍であり1キログラム500～1,000円程度である。

野菜類はほとんどがマダガスカルからの輸入であり、種類、量ともにきわめて乏しく、品質は悪く、高価であり、最悪の状態である。

グランドコモロ島においては、じゃがいも、にんじん、タマネギ、キャベツ、トマト、菜っ葉類は常時入手可能である。レタス、セロリ、マッシュルーム、

ピーマン、カブ、ナスなどが特定のマーケットでときどき入手できるが、価格はかなり高い。

果物類は1年を通じて豊富である。バナナ、アボカド、マンゴー、パパイア、オレンジ、ココナツなど、熱帯特有の果物は常時入手可能である。そのほかパッションフルーツ、ライチなどが季節により入手可能であり、価格も安価である。また、ときどき一部マーケットに南アフリカからの輸入品のブドウ、リンゴ、メロン、スイカなどが出回るが、高価である。

加工品は缶詰、チーズ、バター、ヨーグルトなどがあるが、種類も少なく、一般的に高価である。

調味料は塩、砂糖、ビネガー、コショウ、植物油、とうがらし、および日本人にはあまりなじみのない香辛料が常時入手可能であるが、しょうゆ、みりん、みそなど日本で通常使用するものは入手困難である。

そのほかビール、タバコ、清涼飲料水などは常時入手可能であるが、輸入品であるため価格は日本並みかいくらか高価である。ウイスキー、ワインなども入手可能であるが、種類も少なく高価である。

菓子などはビスケット、チョコレート、キャンデーなど各種輸入菓子類が常時あるが、日本のものと比べて甘味はかなり強く、高価である。また、賞味期間の過ぎたものも多い。

(3) 食料の入手

食料の入手は青空マーケット、モロニ市内に数軒ある個人商店に毛のはえた程度のマーケットと、韓国人、パキスタン人、現地の人の経営する多くの個人商店がある。

品物により同じものでも店により値段のばらつきが大きく、5割程度値段の違うこともある。

青空マーケットでの加工品の購入価格は、一般商店、マーケットに比べ1割程度割高となる。これは、一般商店またはマーケットで仕入れたものを青空マーケットで販売しているためである。

1-2 食器・調理器具など

(1) 食器・調理器具などの入手

食器や調理器具は、日本料理用品などの特殊なものを除き現地で調達できる。価格はさまざまであるが、価格のわりには質はよくない。

冷蔵庫、電気オーブン、ミキサーなどの電気器具およびまな板、包丁（あまり切れない）、鍋、フライパン、圧力鍋、皿、コップ、ナイフ、フォーク、スプーン、茶わんなどは手に入る。

(2) 日本から持参した方がよい食器・調理器具など

電気製品では電気釜、電子レンジなどは販売されていないので持参した方がよい。ただし、電圧は220ボルトである。

はし、茶わん、おわん、しゃもじ、しょうゆ差し、包丁は日本食にこだわる人は持参する必要がある。

1-3 外 食

(1) 飲食店

外食についてはレストラン数、メニュー数、価格いずれも最悪である。(高く、まずくて、種類なし)

グランドコモロ島においては4卓ほどのレストランが2～3軒ほどしかなく、あとは3軒あるホテルのレストランしかない。

レストランのメニューは、貧弱で、あまり衛生的ではない。値段も、夕食で3,000～5,000円もする。ホテルのレストランも、メニューはかなり限られ、2～3種類の日替わりでいつも好きなものを選べるわけではない。すすめられるのは、コモテルまたはガラワホテルの日曜日の昼食のバイキングで、2,500円で食べられる。ホテルでの夕食の価格は、レストランより少し高いぐらいである。

(2) その他の飲食店

夕方頃から町中の路上のあちこちで、肉を串に刺したものを炭で焼いて、キャッサバイモを焼いたものと一緒に販売しているが、非常に不衛生である。

町から少し離れたところにディスコが数軒あり、ビールなど飲料水と簡単なスナックを販売している。

そのほか、サンドイッチの販売店が1軒ある。

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

コモロの気候は、乾季と雨季があり、乾季はわりと過ごしやすいが、雨季は非常に暑く湿気も多いため過ごしにくい。1年を通じて夏服で生活できる。

衣類はモロニにおいてはかなり出回っているが、品質、色、デザインなどは日本人好みのものは少ないので、日本より持参した方がよい。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

下着類、子供用衣料、乳幼児用衣料、靴、スリッパ、スーツなど礼服は、日本より持参した方がよい。また、海およびプールで泳ぐ人は水着（特に女性用、子供用）を持参した方がよい。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

ふだん着、遊び着などは品質、色、デザインにこだわらなければ現地で購入できる。

(4) その他の留意点

クリーニング店のまともなものがなく、ほとんど使用人の手洗いとなると思われるが、扱いが荒いため、上等な衣料は避けた方がよいと思われる。

2-2 礼 装

(1) パーティ

オフィシャルなパーティ以外は、特に服装にこだわる必要はない。男性はネクタイ着用（ときには必要ない）、女性は見苦しくない服装であれば問題はない。（ただし、スカートが普通）

オフィシャルな場においては、現地の人にはイスラム式のフォーマルな服装をするが、外国人は男性はスーツ、女性はドレスである。（現地の人主催のパーティでは、夫婦同伴はあまりない）

(2) 式 典

外国人は男性はスーツ、女性はドレスである。

(3) その他の冠婚葬祭

外国人は男性はスーツ、女性はドレスである。結婚式においては、イスラム教の影響で女性が呼ばれることはあまりなく、男性のみの食事会になる。

(4) その他の留意点

イスラム教の影響で公式の場は男性が中心であり、女性をみかけることは少ない。この傾向は、地方に行けばさらに強くなる。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗 濯

クリーニング店はモロニに1軒あり（コモロにただ1軒の店）、ドライクリーニングもできるが、特別な生地のものには避けた方がよい。電気洗濯機はほとんど出回っていないので、ふだんの生活では使用人などの手洗いとなる。使用人の扱いも非常に荒く、白地のものも色物も一緒に洗ったり、漂白剤を多量に使用したりするので注意が必要である。

- (2) 仕立て、修繕
簡単な修繕は町中の仕立屋を利用できるが、込み入ったものは無理である。
- (3) 保管
湿気が多いので、保管には十分注意が必要と思われる。

3. 住 宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

現在までJICA専門家の住居はコモロ政府提供住居であり、政府により一般の家具付き家屋を借り切り、家賃はコモロ政府が支払う形式をとっている。専門家の負担は、電気、水道、電話、ガードマンなどの使用人のサラリーなどである。

コモロの事務手続は一般に遅いため、配属先のしかるべき担当者（カウンターパートなど）を通じて頻りに交渉する必要がある。

政府の提供がない場合は、配属先の知人などの紹介により個人交渉となると思うが、家賃は一般に高く、JICA住居手当の約4倍以上必要であり、物件も多くはないので問題となると思われる。

(2) ホテル事情

安心して泊まれるホテルはモロニに3軒、アンジュアン島に2軒、モヘリ島に1軒あるのみである。料金は、ホテルの規模に対しても非常に高い。

モロニには家族的なパンションがあるが数は少なく、サービスは期待できない。

ホテル、パンションは次のとおりである。

国営ホテル・コモテル——モロニ市中心から2キロメートルの海岸にあり、主に出張者に利用される。料金は1泊朝食付きで2万5,000コモロ・フラン（1万2,000円程度）、公務員割引があり2万コモロ・フランになる。

ホテル・シーラカンス——モロニ市内にあり、便利であるが、料金のわりにあまりきれいではない。料金は1泊1万6,000コモロ・フランである。

パンション・コヒノール——モロニ市内にあり、インド系フランス人経営のパンションである。個人旅行者、国連関係の人々に多く利用されている。ラマダン期間中は飲酒禁止である。料金は1泊6,500コモロ・フランである。

ガラワホテル——モロニより北に40キロメートルのミツァミウリ市にある、南アフリカのサン・グループ経営の本格リゾートホテルである。設備は豪華で、マリンスポーツも楽しめる。料金は1泊5万コモロ・フランと高い。

国営ホテル・コモテル——アンジュアン島にあり、料金は1万6,000コモロ・フランである。

国営ホテル・コモテル——モヘリ島唯一のホテルで、食事は予約をしないと食べられない時がある。料金は1万5,000コモロ・フランである。

(3) 住宅の探し方

住宅の情報はほとんどない。したがって、個人で探す場合は、カウンターパートか友人に相談して探すほかない。

(4) 住宅の選定上の留意点

任国政府提供住宅の場合、住居は2～3ベッドルーム、温水設備、水洗トイレ、家具一式が備わっている。

一般的にモロニにおいては、水、電気などが長時間止まることはあまりない

が、アンジュアン島、モヘリ島ではしばしば断水、停電があるので、貯水タンク、できれば非常電源が必要と思われる。

値段が高いわりに、大家はほとんど何もしてくれない。改善が必要な場合は、頻繁に要求する必要がある。

治安はほかの国に比べてよい方と思われるが、泥棒はいるのでセキュリティのよい家を選び、一軒家の場合はガードマンをおいた方がよい。

(5) 住宅の契約

契約期間はまちまちであり、交渉次第である。

(6) 電気、ガス、水道などの手続と管理

電気代、水道代は契約者が 2ヵ月おきに支払わなければならない。支払いが遅れるとすぐに止められてしまうので、請求書がきたらできるだけ速やかに支払うこと。

炊事の燃料はモロニではプロパンを使用しているが、からのポンベを持って行って詰め替えをするか、ポンベごと交換する方法がある。アンジュアン島およびモヘリ島においてはガスがなくなることが多いため、灯油を使用している。電気代が高いので、電気の炊事器は普及していない。

(7) その他

特にない。

4. 医 療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

日本から入国する場合、黄熱病、コレラの予防接種が義務づけられている。このほか破傷風、狂犬病、肝炎などの予防接種も受けておく方がよい。

(2) その他の準備

歯の治療はしておくこと。またメガネ、コンタクト用品は予備を忘れないこと。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

各島には国立総合病院があるが、その設備、衛生環境は最悪である。ほかの病気の感染のおそれがあり、緊急時を除き利用は避けた方がよい。フランス人と現地の医師が症状に合わせて薬の処方せんを書いてくれ、それに従い町の薬局にて購入することになる。ただし、薬名がわかれば処方せんなしでも薬は購入できる。

(2) 緊急時の対応と措置

救急車は国立病院に電話することによって可能であるが、信頼できないため、カウンターパートおよび友人などに電話して助けを求めるしか方法はない。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

持病の薬は持参した方がよい。

(2) 任国で調達できる医薬品

輸入医薬品の供給は豊かであり、ほとんどの薬は入手可能であるが、その病気がはやると品切れになることもある。

(3) 任国で調達できる衛生用品

ほとんどの衛生用品が入手可能である。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

説明書がほとんどフランス語であるので、使用方法をまちがえないように注意が必要である。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

現地での出産は衛生面ですすめられない。妊娠した場合は、日本に帰国した方がよいと思われる。

(2) 出産後の対応

マラリアなどの病気も多くあり、医療設備が貧弱であるため、乳児はあまり同伴しない方がよい。

(3) 育 児

育児用品の入手は容易であるが、品質はよくない。紙おむつも高価であるが、入手できる。

4-5 手 術

- (1) 任国で可能な手術
現地での手術は、緊急時を除いて避けた方がよい。
- (2) 手術設備の状況
設備は貧弱で不衛生である。
- (3) その他の留意点
手術は現地ではできないと思ってまちがいない。

4-6 任国でよくかかる傷病

- (1) 一般の疾病
消化器病（水あたりなど）およびかぜ、流行眼などがある。また、乾季になるとマラリアが流行する。
- (2) 風土病・伝染病
マラリア、流行眼などがある。
- (3) 有害動物、病害虫
小型のサソリ、ムカデが家のなかに入ってくるので、幼児は注意が必要である。

4-7 保健衛生

- (1) 飲料水
モロニにおいては生水の飲用は可能であるが、短期滞在者および体力のない者は煮沸消毒をするか、市販のミネラルウォーターにした方が無難である。
- (2) 濾過器の入手法
濁り水でないので、特に必要ない。
- (3) その他の留意点
特にない。

5. 教 育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

コモロにおける義務教育は、7年間の小学校のみである。その後セコンダリーに進み、バカロレアを取得できれば、外国の大学に進学できる。

小学校ではすべての子供たちがコーランを読むために、アラビア語を教える。(読めるというだけで、アラビア語を解するという意味ではない) これは、コモロにとって重要な項目である。

そのほかの教育はすべてフランス語で行なわれる。(フランスからの教科書などの援助、および公用語がフランス語のため)

教育に関しては、フランスがほとんど援助を行なっているようである。

(2) 日本人学校

ない。

(3) 現地校、外国人学校

外国人学校は、私立校のエコール・ド・フランスがある。ヨーロッパなどの外国人子女は、ほとんどここに通う。

(4) 幼稚園

ミッション系の幼稚園がある。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

ない。

(2) 現地校、外国人学校

(3) 幼稚園

ミッション系の私立幼稚園の授業料は、1期(4ヵ月ごと)で2万5,000コモロ・フラン(1万2,000円)、入学金は1万コモロ・フラン(5,000円)程度である。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

モロニに唯一の図書館があるが、規模は小さい。

(2) スポーツ施設

フランスクラブにテニスコートがある。スイミングプールはモロニおよびアンジュアン島のコモテルにあり、1日500コモロ・フランで利用できる。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

フランス語の家庭教師は雇えるが、授業料は非常に高い。

(2) 通信教育

各自赴任前に日本で手配する。

(3) 携行した方がよい家庭用学習教材

日本語の教科書、参考書および問題集、フランス語を習おうと思われる時はフランス語の辞書は持参した方がよい。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

一般に外国人宅では、家族の規模により 1～3人の使用人を雇っている。イスラム教国なので、使用人は男性であることが多い。使用人のなり手は多く、人を探すのに苦労はしないが、コモロ人は一般にあまり働かず、病気を理由にこななかったり、なんらかの理由をつけて頻繁に休む傾向がある。

解約のトラブルを避ける意味でも、契約の際、期間、給与、休暇、禁止事項などを契約書に盛り込むことが望ましい。

6-2 運転手

(1) 雇 用

車の台数が少なく、ほとんどの外国人は運転手をつけていない。探すとなれば、知人の紹介しかない。また、日本より持参した右ハンドルの車を安全に運転できる運転手はほとんどいない。運転手を雇用する場合は、左ハンドルの車を送るか、現地にて購入する方がよい。

運転手の給料はほかの職業と比べて高く、月 5万円以上かかると思われる。

(町を走る唯一の交通機関のタクシーの収入がよいため)

まともな運転手を探すのは非常にむずかしく、最初は試用採用としてようすをみる必要がある。

(2) 日常管理

洗車、保守点検、走行管理などがある。特に走行管理はガソリンを抜かれたり、勝手に私用に使われたりする危険が大いにあるため、必ず必要である。

(3) 教育指導

安全運転、マナーを教育する必要がある。特にコモロ人の運転マナーの悪さは、ほかのアフリカ諸国と比べても非常に悪い。事故を起こした場合 100パーセント雇用者の責任（特に外国人の場合）にさせられるので、安全運転の教育は必要である。また保険には必ず入り、できれば日本国内でもあわせて加入することが望ましい。

(4) その他の留意点

イスラムの国であるので酔っ払い運転はほとんどないが、若い運転手の運転はマナーが非常に悪く、スピードを出すので、安全面からも避けた方がよい。

6-3 メイド／サーバント

(1) 仕事の種類と人数

大きな家がないため、洗濯、掃除、買物、食事の準備などをしてくれるメイドは 1人雇えばよいと思われる。

ただし、買物は気をつけないと、つり銭をごまかされたりするので注意が必要である。また、食事の準備は衛生観念がないため、最初によく教育する必要がある。

(2) 雇 用

外国人の雇用している使用人の給与は 7:30～17:00まで（12:00～15:00まで休憩）で 2万～4万コモロ・フラン（1万～2万円）であり、ほかのアフリカ

諸国と比べて高い。

(3) 日常管理

食器などを無断借用したり、冷蔵庫の食べ物を少しずつ勝手に持って行ってしまうので、注意が必要である。

洗濯に関しては、色物を一緒に漂白したりするので注意が必要である。ミス
を犯しても黙っていることが多く、認めようとしなない。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇 用

通常、庭師兼ガードマンである。

よいガードマンはなかなかみつからないので、信頼できる友人、知人よりの
紹介を得た方がよい。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

近距離移動用に乗り合いタクシーが、長距離移動用にこれも乗り合いの小型トラックが走っている。島内の移動はこれのみで、バス、鉄道などはない。

道路状態は、日本の田舎道を狭くしたようなものであまりよくない。車がすれ違うのがやっとという道も少なくない。グランドコモロ島はほかの島に比べまだまだましであるが、あまりよい状態とはいえない。

島間の移動は45人乗りのプロペラ機か船があるが、船は時間的にもすすめられない。

(2) 自家用車を利用する場合

道が狭く、近年モロニ市内は車が増えたので、運転には注意が必要である。

(3) レンタカーなどを利用する場合

(4) 道路地図

島は狭く、町も小さいため、道路地図を使わなければならないことはない。

7-2 交通事故

基本的には日本と同じである。

(1) 対処方法

負傷者の確認と処置を行ない、警察に連絡する。カウンターパートなどに連絡し、助けをこう。電話など敏速な通報がなかなかとりにくいので、可能な限り通りがかりのドライバーに協力を仰ぐことになる。

(2) 救急病院

各島の国立病院が救急病院である。

(3) 盗 難

島が狭く、車自体をとられることはほとんどない。とられるとすれば、車内のステレオなどがねらわれる。

盗難にあったら、最寄りの警察に連絡して手続を行なう。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

フランス式で、日本と逆の右側通行である。

(2) 対処方法

運転上、現地の人の運転、特にタクシーの運転マナーが悪いので注意が必要である。また、ラウンドアバウト（ロータリー）は右側優先である。（イギリス式の中優先ではない） 信号機はコモロには 1台もない。

7-4 車の修理

(1) 部 品

近年日本車の数が増えたため、少しは部品の入手ができるようになったが、まだまだ入手不可能と考えた方がよい。日本から車を送る場合は、あらかじめ必要と思われる部品は用意した方がよい。

(2) 修理工場

簡単な修理は部品を持って行けば、現地の修理工場で十分対応できる。

8. 通 信

8-1 電 話

(1) 一般事情

電話の普及率は、100人当たりの加入者が0.8と低くまだまだである。公衆電話は郵便局にあり、24時間かけられる。自動ではなく、交換手を呼び出す方式である。路上にはない。

(2) 国内電話

まちがい電話は多いが（交換機が古いため）、回線状態は良好である。グランドコモロ島以外の島には回線数が少ないため、混雑時はかかりにくい。

(3) 国際電話

国際電話は、衛星地上局ができて数段よくなったが、フランスを除いて直通（00発信）はできないので、交換手を呼び出さなければならない。料金は、日本まで1分2,950コモロ・フランであるが、最初の3分間は話していなくても請求される。一般に割高であるが、回線状態は国内回線より良好である。

8-2 電 信

(1) テレックス

テレックスの交換機がまだマニュアルのため（現在フィンランドの援助で自動化を行なっている）、つながりにくく、一般にはあまり利用されていない。（全国に100軒ほどしかない）

(2) ファクシミリ

国際電話事情がよくなったため、ファクシミリは使用できる。モロニの郵便局では、ファクシミリのサービスを行なっている。

(3) 電 報

各郵便局より受け送りすることができる。

8-3 郵 便

(1) 一般事情

狭い国であるので、郵便はよく届く。国際郵便はフランス経由が多く、したがって1週間に2回しかフライトがないため、日本からの郵便はだいたい1週間～10日かかる。（日本へもだいたい同じ）小荷物は一般に遅れるが、1ヵ月程度でだいたい届く。紛失することはあまりない。

(2) 課 税

JICAの専門家は無税で引き取れる。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

日刊紙はなく、毎週金曜日に数ページのフランス語版の「Al-watany」が発行されている。1部 300コモロ・フランである。

(2) 本邦日刊紙

日本を出る時に個人的に手配が必要である。(OCSなどに問い合わせる)

(3) 欧米紙

個人的に手配する。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

ラジオコモロ 1局のみであり、フランス語、コモロ語で放送されている。放送時間帯は、朝と、夕刻から 23:00までである。

(2) ラジオジャパン

受信状態はあまりよくない。

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

BBC、VOAの短波放送が、時間帯により受信可能である。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

コモロとしてのテレビ放送は行なわれていない。

(2) テレビ受信

外国人および金持ち階級は衛星アンテナを備え付け、フランスの国際放送を受信している。最近モロニ市内を対象にフランスの好意で衛星放送を受信、それをそのままテレビ放送としてVHSで放送を行なっている。これを受信するには、モロニ市内であれば、フランスセカム方式のテレビとVHSのアンテナ(室内アンテナでよい)があればよい。

アンジュアン島の南の端では、マヨット島のテレビを受信することができる。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

- (1) 映画館
ない。
- (2) 劇場
ない。

10-2 出版・書籍

- (1) 一般事情
ほとんどの書物は入手できない。日本から送られてくる書物などの検閲はない。
- (2) 書店
書店というものはほとんどなく、町の文房具店が若干のフランス語の書物と雑誌をおいているのみである。

10-3 語学学習

- (1) 語学学習施設
ない。
- (2) 家庭教師
フランス語の家庭教師は容易にみつかるが、授業料は高い。

10-4 文化活動、文化施設

- (1) 一般事情
文化活動、文化施設はほとんどない。
- (2) 日本・任国友好協会などの有無と活動の内容
ほとんどない。
- (3) その他の文化活動、文化施設
モロニに小規模な博物館があり、コモロの歴史、民族衣装、自然環境の展示物がある。ここでシーラカンスのはく製がみられる。

10-5 写真、ビデオ

- (1) 写真
フィルムの入手は可能である。現像も、モロニ市内に 1軒ある写真屋で 2～3日でできる。
- (2) ビデオセット
映画館がないので、そのぶんレンタルビデオが普及している。すべてフランスセカム方式である。
- (3) ミュージックテープ
たいしたものはなく、音質も非常に悪い。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

- (1) 音楽会、コンサート
音楽会と呼べる代物ではなく、素人のライブショー程度のものがときどき行なわれる。
- (2) コーラス、演奏グループ

- ない。
 - (3) ピアノなど
 - ない。
 - (4) レコード
 - ない。
 - (5) 民族楽器
 - ない。
 - (6) その他の楽器
 - ない。
- 10-7 手芸、絵画、美術工芸
 - (1) 手 芸
 - (2) 絵画、美術工芸
- 10-8 趣 味
 - (1) 園 芸
 - ない。
 - (2) 釣 り

モロニにおいては島の周りが溶岩であるため、岸からの釣りはむずかしい。ボートがあればかなり楽しめると思われるが、貸ボートのようなものはない。近郊の漁師と交渉して借りる方法はあると思われる。
- 10-9 娯楽、遊戯など
 - (1) 娯楽、遊戯、ゲーム
 - ない。
 - (2) 芸能興行
 - ない。
- 10-10 スポーツ
 - (1) ゴルフ
 - ない。
 - (2) テニス

フランスクラブでできるが、現地の人はほとんどやらない。
 - (3) 水 泳

プールはコモテルに行けば 1日 500コモロ・フランで利用できる。ガラワホテルにもプールはあるが、ホテル利用者のみで、一般開放はしていない。海岸は溶岩のところが多く、砂浜の海岸は少ない。また、日本の海の家のような施設はない。
 - (4) その他のスポーツ、用具、ウェア

マリンスポーツは、ダイビングクラブがモロニ近くのビーチにある。器具は借りることができる。また、ガラワホテルにはいろいろなマリンスポーツの施設が整っており、一般でも利用できる。
 - (5) スポーツクラブなど

フランス人が行なっている会員制スポーツクラブがある。

10-11 風俗営業

ディスコが数軒モロニにある。規模は大きくない。

10-12 子供の遊び

子供の遊び場はほとんどない。しいてあげれば海岸での水遊びであるが、施設はない。

11. その他のサービス

11-1 美容院

モロニに 1軒ビューティーサロンがある。

11-2 理髪店

モロニに 1軒あるビューティーサロンが、理髪店も兼ねている。

11-3 日本より持参した方がよい美容・理髪用品

日常使用している化粧品は、持参した方がよい。

12. 観 光

12-1 地方旅行上の留意点

観光地というものはほとんどない。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

ほとんどない。

12-3 旅 行

(1) 自動車

小さな島であり、道に迷うことはない。道が狭く、ところどころに穴があいていたりするので、スピードは出さない方がよい。

(2) バス

ない。

(3) 鉄道

ない。

(4) 航空機

モヘリ島およびアンジュアン島への移動に、コモロ航空がほぼ毎日運航している。

12-4 エージェント

ない。

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

個人で電話予約する。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

国際電話の状態がかなりよくなったので、電話連絡が最良かと思われる。しかし、フランス以外の国はオペレーター経由のため、暴動やクーデターなどの場合はつながらない可能性があり、その場合はフランスの日本大使館かJICA事務所に連絡するのがよいと思われる。(フランスに電話をするには、00発信で自動でかけられる)

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

強盗など凶悪な犯罪は皆無であり、治安は非常によい。ただし、コン泥は存在するので、戸締まりなどは必要である。

(2) 防犯対策

特に対策をたてる必要はない。

(3) 被害時の心得

自分ひとりで対処しようとせず、現地スタッフなどの協力を得るように心がける。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

外国人住宅はブロック作りであるため、火災の被害はほとんどない。火山国であるので地震はあるが、日本のものより規模は小さく、震度1～2程度のものを火山噴火時に感じた程度である。

台風も大きなものはなく、あまり問題はないが、海岸近くの家は避けた方がよい。

(2) 防災対策

特にない。

(3) 被災時の心得

自然災害で家屋が損傷した場合は、大家に連絡し修繕を行なってもらう。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

- (1) 空港施設概要
- (2) 入国手続書類
ない。
- (3) 入国審査
問題ない。
- (4) 税関検査
JICA専門家はすべて無税で持ち込めるので、問題はない。
- (5) 空港内での留意点
特にない。
- (6) 空港からのトランスポートーション
旅行者をねらった悪質なタクシーがあるので、注意すること。
- (7) その他の留意点

14-2 出国時

- (1) 出国時の概要
公共料金の支払いをすべて行ない、できれば電力局、税関、郵政省の3ヵ所から出国許可証明書を受け取る。すべて揃った場合は、出国の際、空港のイミグレーションに提出する。揃わない場合は、無視した方がよい。
- (2) 出国手続上の留意点
上記の書類がない場合でも、出国を拒否されることはないと思われる。所属の関係者に確認をした方がよい。

14-3 帰国手続

- (1) 帰国時に必要な事務手続
- (2) 車の処分
早めに買い手を見つけ、少しずつ料金を回収した方がよい。日本車の買い手には不自由しないが、料金回収に時間がかかる。
免税で持ち込んでいるため、売る時に税金を払う必要があるが、値段を下げれば手続を買い手に委任することができる。
- (3) 家財道具の処分
家具付き住宅であるので、売却するものはほとんどないと思われるが、売却するものがあれば、できるだけ早くリストを作り、値段を提示し、友人・知人に売るか、マーケットなどの掲示板に表示し売却する。帰国間近になると、値段を大幅に値切られる。
- (4) 住宅の明け渡し
政府借上げ住宅であるため、後処理はほとんどない。電気の清算を行なえばよい。
- (5) 銀行口座の閉鎖
その日に解約ができる。コモロは自由に外貨に変更することができるので、あわてる必要はない。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

- (1) 輸送業者
コモロ航空がすべてを行なっている。
- (2) 輸入手続
無税で入れるため赴任先省庁に依頼、書類を整えてもらい、引き取りを行なう。
- (3) 家財道具の購入
大きな電気製品などは、申請を行なえば無税で購入できる。全額を支払い、あとで税金分が返ってくる。

15-2 自動車

- (1) 一般状況
- (2) 輸入手続
- (3) 任国での購入
- (4) 自動車登録
無税で持ち込んでいるので、赴任先省庁に依頼し登録を行なうと、一般の車両とは違ったナンバーを与えられる。
- (5) 免許証取得
国際免許が使用できる。期限が切れてもあまり問題にはならないが、できれば一時帰国時などに再発行してもらった方がよい。大使館発行の翻訳証明でも問題ないと思う。(確認必要)
- (6) 保険、税金
保険は、モロニで自動車保険に加入することができる。保険金額が低いので、日本でも保険に入っておけば安心と思われる。

16. 社 交

16-1 風俗習慣

イスラムの国であるので、宗教上の慣習に留意すること。

16-2 パーティでの留意点

服装にはあまりこだわらない。現地の人々の正装はイスラム式のフォーマルな服装であるが、外国人はスーツかブレザーにネクタイ着用で十分である。

女性が出席する場合の服装は、外国人女性とほとんど同じで、見苦しくない服装であれば問題はないようである。一般に、コモロ人女性が公式のパーティに出席する機会はあまりないようである。

16-3 来客時の留意点

特にない。

16-4 訪問時の留意点

特にない。

16-5 禁止されている言動

一般の開発途上国と同じである。

17. 任国官公庁

18. 在外日本関係機関など
ない。

19. 地方都市

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任される JICA 長期派遣専門家、JICA 職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。

なお、政府技術協力のために赴任する JICA 役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルです。したがってご利用は JICA の用務による業務渡航者に限らせていただいております。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステイタスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしぶりを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA 図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

——— アジア地域 ———

1. バングラディシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. 中華人民共和国
5. インド
6. インドネシア
(ジャカルタ、バンドン、ジョグジャカルタ、メダン)
7. 大韓民国
8. ラオス
9. マレーシア
10. ミャンマー
11. ネパール
12. パキスタン
13. フィリピン
14. シンガポール
15. スリ・ランカ
16. タイ (バンコク、チェンマイ、コソク)

——— 中近東地域 ———

1. アルジェリア
2. パハレーン
3. エジプト
4. ジョルダン
5. クウェイト
6. モロッコ
7. オマーン
8. カタル
9. サウディ・アラビア
10. スーダン
11. シリア
12. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
13. アラブ首長国連邦 (ドバイ)
14. イエメン

——— 太平洋地域 ———

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. バラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア

——— 欧州地域 ———

1. ボーランド

——— アフリカ地域 ———

1. ブルンディ
2. コモロ
3. エチオピア
4. ガンビア
5. ガーナ
6. コートジボアール
7. ケニア
8. リベリア
9. マダガスカル (アンタナリボ、ティエゴ・ヌビス)
10. マラウイ
11. モーリシャス
12. モザンビーク
13. ニジェール
14. ナイジェリア
15. ルワンダ
16. サントメ・プリンシペ
17. セネガル
18. セイシェル
19. ソマリア
20. タンザニア (ダルエスサラーム、ザンザバル)
21. トーゴ
22. ザイール
23. ザンビア
24. ジンバブエ

——— 中南米地域 ———

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル
(ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、レシフェ、ポルトアレグレ、ベレン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
15. ペルー
16. トリニダード・トバゴ
17. ウルグワイ
18. ヴェネズエラ

任国情報コメント用紙

本書をより使い易いものとするために、皆様からの貴重なご意見（説明不足、間違い、誤字、脱字、ご要望など）をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、任国情報に関する事のみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

〔送付先〕 〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5
 国際協力センタービル
 国際協力事業団国際協力総合研修所
 技術情報課 任国情報係

国名		年度	年版
----	--	----	----

氏名		年齢	歳	性別	男・女
利用区分	所属(担当)部課名	指導科目	派遣期間		
JICA役職員					
JICA専門家等					
その他		(所属先)	(当該国での滞在期間)		
住所					
電話番号		日付	年	月	日

ページ	行	内 容

国 総 研 記 入 欄					
記 事		技術情報課確認印			
		データベース修正処理	課長	代理	担当
		月 日	月 日	月 日	月 日

